

夫ビエウロウ
人ウロウ

フレールベル追懷錄

S K 生 譯

十 祭典の教育的價値

フレールベルとミツデンドルフとは既に前年の夏遊戯祭の計畫に就て話し合ひました、その遊戯祭といふのは附近の或る美しい場所で、附近諸地方の兒童と先生との協力によつて祝はれる筈でありました、この計畫が兒童、青年及び一般人々のために祭典を教育的に利用するといふフレールベルの思想と聯關して屢々私達の間で論議せられました。

現代に於て益々顯著極端になりつゝある政治的自由の誤用といふことは、フレールベルの考によると、青年及び兒童が學校の壓制と學校外の無責任の自由との兩極端の間に處して、正しき秩序ある社交に於て自由に行動し得る機會尠といふことが

とに一部の原因が存するのであります。すべての階級に許されて居る現在の自由の程度は未だこれに應ずべき程度に於て存在してゐない所の自由に對する徹底的の教育を要求して居ります。この教育は學校時代の前に兒童の廣い社交に於て——各兒童はこの際幼稚園に於ける如く、或る規定の下に自由に活動す——始めらるべきであります。

家族の狭いサークルはこの目的のためのすべての條件を充たすことが出来ません、何故ならば家庭に於て愛に取圍まれて居る兒童は、他人の爲めに、自己を抑制し、否定するやうに學ぶべき機會を見出すことが出来ないからであります。之に反して、學校の社會的生活に於て、受働的な服従と

いふことは皆の者に活動の自由のために十分な機會を與へるには是非とも缺かれてはならないのであります。自由の濫用といふことは青年の學校の規則正しき活動の下や大人の堅實な仕事に於ては滅多に起らないのであります。經驗は、過度は一般に娛樂の時間に於て起るといふことを十分に示すのであります、この危險に誘うて行くものは荒んだ粗放な享樂であります、自由な制度が保たれて行かなければならぬとするならば、青年は高尚な快樂にまで教育されなければなりません。自然及び藝術より享受せらるべき快樂を拒まれた人達を中庸を失した粗放に赴かしめざるやうにするのは容易の業ではありません。

フレーベルに據れば、一般道徳は、肉體的の欲望に對して對抗力を與へ、低級な嗜慾を出來るかぎり防止するために、人間のこの理想的方面を生活の極く初から目覺まして置き、充足させて置くことに大部分依存するのであります。

兒童の心靈に於て反省力の未だ目覺めない間に發達した美の感覺はこの目的のために最も善き手段を提供いたします。それ故に兒童の眼はその最も幼き頃に於て形體、色彩等に向つて開かれ、その耳は又音樂に向つて開かれねばなりません、而していたいけな兒童の力は美しい物を作るために準備され利用されなければなりません。

フレーベルはこの美しい物を作るといふことは心靈をあらゆる方面に於て容易く理想的ならしむる最善の手段であると思つて居ります、而して彼は又創造力の練磨は粗放及不徳に打勝つ最も重要な手段の一であると考へて居るのであります。

日々の苦惱から抜け出で、假令單に空想的にでも理想的な事情に身を置くことや、時折何物にも煩はされずに子供のやうな無邪氣な遊樂にその身を打込んでしまふことの缺乏は祭典によつて満足させられます。祭典は又同時に感謝、偉なる又善なる行爲の推賞、拔群の愛國者、公共事業盡瘁

者、偉人、發明者の追憶等の如き特別な感情に表現を與へるべく役に立つものであります。

祭典が若し單なる感覺的の快樂以上に昇進すべきものとするならば遊戯、否寧ろ遊戯の衣着けたる藝術は斯る祭典の主要成分を構成します。

兒童の祭典を高尙にし、理想化するため、兒童の身心は先づ快樂のために準備せられなければなりません。

少年及び青年からその正當な喜悅を奪ひ去らうとすることは(フレーベルがよく抗論する如く)教育上大なる誤謬であります、何故ならば自然は少年及び青年の心に喜悅に對する缺乏と熱望とを植ゑたからであります。自然の規則正しき要求が充たされなかつた時身體的の發達が中止せしめられ、損はれるやうに、喜悅に對する要求が充たされなかつた時には心靈及びその自然的の發達は拘束さるゝのであります。

度に過ぎた抑制と窮乏との中に成長した青年は

自由と機會とが彼等に與へらるゝや否や極端に快樂を追求することによつてこの見解の正しいことを示すのであります、然るに一方に於て無邪氣な幸福な少年期を経て來た青年が快樂の不節制に走るといふことは滅多にありません。

自然の満足が許される時、過度は防がれるのであります、極端は常に反對を呼び寄せるのであります、すべてに於ける中庸は實際第一の教育的規則であります、而して青年の快樂の適當な制限は缺かれてはなりません。

フレーベルは心を高尙にし、美しきもの及び理想に對する願望を満足させ、而して何よりも、破壊的の欲望を遮る力に活動を與へることによつてすべてのつまらない無爲の快樂を防ぐ所の、子供らしい喜悅を正しく評價した時、彼は正しき道を發見したのであります。

人々の渾一の手段としての享樂はその最高最妙の表現に於て、すべての時代を通じて、すべての

異つた社會階級及び教養の異つた階級を神の禮拜に於て結び附ける所の眞の宗教に酷似して居ります。享樂は享樂の時期の間、すべての軋轢からすべての敵意とすべての隔離とを除き去ります。

人々の心を描いてみたならば、同一の目的に對しては感情といふものは同一であり、同一の目的に對しては地上の人類の最高最妙の宿運の最初を見ました、それを彼は「生の渾一」といふ言葉で現して居ります、而してこの言葉は彼の場合に於てはそれの種々なる關係及びそれの種々なる實現の階段に關聯して多種多様の意義を有して居ります。

個人に關して、この「生の渾一」或は調和は、最後の結果として、事實に於ては瞬時の間考へることが出来るだけの靈性と肉性との間に存する矛盾の解決を齎します、絶對的にいへば罪惡から超越することが人間の最後にして最高なる宿運であり、而してすべての宗教の目標であると同じく、すべての教育の目標であります。

自然若しくは物質世界に於て、その状態がすべての部分が、渾然たる統一としての全體の目的に事へるやうになつて居るすべての組織體の中に、フレーベルはこの「生の渾一」の寫しを見ました。

中心から圓周へかけて諸半徑を有する圓は彼にとつてこの思想のシンボルでありました、何故ならば圓周は圓周と中心とがお互ひに相對して居り半徑によつて結合されて居りますので「反對の結合」といふ一般的法則の表現となるからであります、この法則は彼にとつてはすべての調和、從つてすべての「生の渾一」の缺くべからざる條件であつたのであります。

自然に於ける組織的生活は、宇宙を統轄する調和の最初として、又この目的を小宇宙（縮小したる世界）として模倣するものとして、人間社會に於て「生の渾一」の第一の取附きを提供します、この組織化は自然が物質的に表すものを精神的に表はさなければなりません。

精神と現象との間に存する類似の認識と上に述べたる靈肉兩界を支配する法則の深き理解は國家組織及び市政も亦全體の安定のために部分の結合を必要とするといふ意見に達しなければなりません、而してこの意見は個人をして良心的に又自發的に市の義務や國家の命令に従はしめるのであります、斯くて國民的渾一に達するためにその條件が充たさるゝのであります。

それ故國家は自らを人類全體の中に於ける個的組織として認めなければなりません、この個的組織は自らのためにその部分を政治的に聯結して「生の渾一」を作ります、而してこれらの個的組織は相集つて地上に於ける諸國民の渾一、最高の政治團體とならなければなりません。

是等の條件を充たすことによつて人類は自覺的の若しくは精神的の全體となるのであります、而してこれによつて「生の渾一」がこの世に於て十分に且つ完全に樹立せらるゝのであります、フレー

ベルのこの論は多くの點に於て大體他の哲學者等殊にクローゼの論と一致して居ります、それは又深く解するときには基督教の教義及びその贖罪の思想とも異るところはないのであります。

近頃の現實主義からいへば、若しもこれがその結果として實際的の教育的効果を來たさないならばこれは要なき假説と何の選ぶところなしとされれたふのであります、フレーベルが可能ならしめた直接的の實地適用は、反對的にでなかつたならば對比的に如上の哲學體系に對して居ります、而して非常に重要なものであります。

現代は、今まで數世紀の間の場合に於けると同じく、人間社會の改善に資するやうな實際的結果を持たない單なる思索に耳を假さないであります。

科學は今日では實際的生活に事へて動いて居ります、けれども科學はそのためにその本來の目的を棄て、了ひはしません、フレーベルの教育法は

哲學說の實際的結果であります、これによつて抽象的の思想の完全な體現及び思想を直接に行爲に實現するといふことが始めて現れて來たのであります、茲に於てかフレーベルはこの實際的の哲學は他のすべての諸哲學體系から完全に且つ十分に區別せらるゝのであります。

現今すべての階級に勢を振つて居る聯合運動に於て、フレーベルは現代を支配して居る渾一の思想の符號を見ました、而してその終局の目標を彼は「生の渾一」と呼んで居るのであります、この渾一はフレーベルに取つては先づ外的及び物質的の目的に向つてそれ自身を感せしめることに於て最高の理想として彼に目されてゐた當來の精神的渾一の先驅でありました、而してその究極の目的は宗教の普遍的意識及び神聖なる渾一であります、その中に潜んで居る純なる人間性の實現のため、各個人の十分にして且つ完全なる發達が要求せられます、個人に於て人間性が獨立的にそれ自

身の特性を示せば示す程、個人は益々生理的にも智的にも自由無礙に活動することが出來ます、個人は益々全體となるべく結合し、又その法則に對して自發的に自己を棄權するやうになります、個人が狭いサークルから、極く初期の社會生活である所の家族の底から、進んで來た時に於て大なる全體と政治團體とがその代りとして活力を持つことが出來ます、最も道德的な而して最も神聖な家族生活のみが生活の於て廣きサークルを意識的の政治團體に導くことが出來ます、而して完全した人類の最高理想に個人を近附けることが出來ます。

けれども眞に高貴なる家族生活は二個の人の最初にして最も原始的な聯合——結婚から流れ出るのであります。フレーベルに據れば、補足者即ち男と女とは結合してあらゆる地上の物象中最も崇嚴にして神聖なものとなります、即ち人が神の姿にまで高めらるゝのであります、それは基本的な條件であります、人類の存續のための、従つて人

類界に神聖なるものが進歩的に存在するための最高の法則であります、結合の永遠の法則は神聖なる愛、徹底的の愛であります、この愛は磁石力の如く神に於けるその源泉から流れ出て最も無意義なる組織體から、人間性を征服して神と同じ姿にまで上つて行く所の最高の精神に及ぶまであらゆる世界に瀾漫して居ります。

この愛の説は人間教育の最高の目標として又北極星として目せられ、人類の萌芽即ち子供に於て、子供の第一の本能に於いて伴はれなければなりません、自己の幸福を求むるに急なる主義主義の征服は教育の最も重要な仕事であります、何故ならば私慾はすべての親交から個人を遊離せしめ、愛の鼓舞的原理を殺すからであります、それ故に教育の第一目的は愛を教へることにあります、個人の主我主義を破壊することであり、人々を導いて家族間に於ける親交の第一階段から、それに續く社會生活の諸階段を経て、人類の愛若しく

は人間がそれを通じて神聖なる渾一に達することの出来る所の最高の克己にまで赴かしめることでもあります。

これは基督教が("following of Christ")と名けて「互ひに相愛すべし」とか「眼もて見來りたる兄弟を愛し得ざる者は未だ嘗つて眼もて見たることなき神を如何にして愛し得べしや」などといふ言葉で現して居るところのものと同一であります。